【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	鹿児島

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	知覧町立知覧小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	２	２	２	２	２	２	１	１３	２１
児童数	５９	６７	５８	５０	７４（１）	６５	１	３７４	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

基礎学力を身につけた子どもの育成
～個に応じた指導法の工夫・改善を通して～

２．研究内容と方法

（１）　実施学年・教科

・全学年・算数
　児童の理解に差が出やすい教科である。特に基礎となる計算力の定着に力を入れたいと考えたから。
・全学年・国語（読解力）
　ＣＲＴの結果から読解力が特に落ちることがわかった。読解力アップのための研究を進めるため。

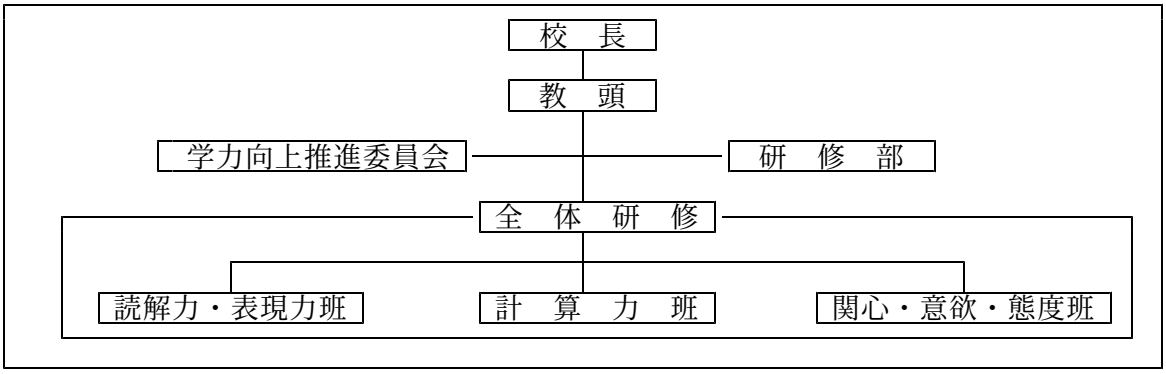
（２）　年次ごとの計画

平成１５年度	○　テーマ 　　基礎学力を身につけた子どもの育成 　～個に応じた指導法の工夫・改善を通して～ ○　研究の見通し 　到達目標を明確にし，集団の力を育てるとともに，一人一人の学力を高める指導法を工夫する。 【視点１】読解力・表現力を確実に身につけさせるための指導の改善 【視点２】個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 【視点３】学習のしつけを定着させるための指導の改善 ○　研究の内容・方法 ①　学力のとらえ方の共通理解→→目指す具体的姿の共通理解。 　　（読み・書き・計算としての基礎学力→発展学力）。 ②　読解力をつけるために ・　「漢字プリント」「読みとりプリント」「視写プリント」「聞き取りプリント」「国語（主述の関係など）プリント」等，読解力を高める上での要素となり得る能力の定着を図るための自作プリントの活用。 ・　月１回の国語チャレンジ（視写のタイムチェックや音読チェックなど）実施による子供たちの実態把握。 ・　全校児童，家庭での音読カードの活用。 ・　朝の活動「あいうえお」（２０分間）の特設。聞き取りプリントや国語プリント（自作）を行う。 ・　国語の時間をはじめ各教科での音読の取り入れ。 ・　日記指導を通して語彙力を豊富にする（表現力アップを図る）。 ③　計算力をつけるために ・　朝の活動「１２３」（２０分間）の特設。現学年で学習する計算領域の定着を図る。自己評価カードも作成。 ・　月１回の計算チャレンジ（前学年までの計算領域）実施による子供た

	ちの計算力定着。 ・　きめ細かな指導法→→ＴＴ指導，少人数指導，習熟度別指導。 〈授業を通して，研究を進める〉→→〈授業を通した情報提供〉 ・　５分間テストの活用等で評価と指導の一体化を図る。 ④　関心・意欲・態度の育成のために ・　学校・学習への意欲付け→→一人一人のよさを認める指導・評価。 ・　家庭との連携→→家庭学習の手引き作成。生活実態調査をもとに，家庭学習時間の確保・正しい生活習慣で過ごさせることのお願い。 ・　学習のしつけの徹底。

平成１６年度	○　テーマ 基礎学力を身につけた子どもの育成 ～個に応じた指導法の工夫・改善を通して～ ○　研究の見通し １年目で創り上げた型を児童の変容を追いながら充実させ，確実なものにする。（知覧小学校の指導法の確立を図る。→→教育財産としての指導法） ・　開発した教材の整理・保管（いつでもだれでも使えるように） ・　他への情報発信→→情報交換 ○　研究の内容・方法 それぞれの視点に基づいての１年目に積み重ねたさらなる研究。 ①　読解力・計算力をつけるために ・　校時表にチャレンジタイム（計算・国語）の特設（朝の会前５分間）。 ・　各自作プリントの活用と見直し。 ・　音読，視写力の向上と読解力向上との関連把握。 ・　読解力を支える聞く力・話す力の向上を図るために，発表の場の設定と内容の充実。 ・　きめ細かな指導法→→ＴＴ指導，少人数指導，習熟度別指導。 〈授業を通して，研究を進める〉→→〈授業を通した情報提供〉 ②　関心・意欲・態度の育成のために ・　基本的な学習のしつけについての定義づけ。 ・　家庭での生活習慣の確立についての定着度調査（結果をもとに更なる啓発を） ・　校内掲示板の確認と意欲を持たせる掲示方法の工夫。 ③　基礎学力を高める授業方法の解明 ・　知覧小らしい指導過程や指導方法の確立→実態に合わせた指導形態の確立 ④　子ども中心の学習の確立→子ども中心の学習像の共通理解と構成要素の解明 ⑤　簡単で効率的な個人カルテの作成

（３）　研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

○【国語チャレンジより】

音読チェックの際の基準（間違いの数など）を設定し，変容を見た。また，視写においては，視写する時間によって３段階に分けてチェックを行った。

《音読》（左の数：６月実施の人数　　右の数：１２月実施の人数）

	１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生
◎	５４→３１	５１→５３	３８→３０	１６→２３	１６→４０	２５→１９
○	３→２１	１３→１９	７→２２	１９→１９	４７→２７	２７→３５
▲	２→　２	１→　３	１０→　４	１２→４	１０→　５	９→１０

《視写》（左の数：６月実施の人数　　右の数：１２月実施の人数）

	１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生
◎	０→　５	４→２８	１３→３２	５→３９	５１→５８	４２→６０
○	１→２５	２１→２９	３３→２２	２０→　７	１９→１２	１７→　４
▲	５８→２７	３９→　８	９→　２	２２→　０	２→　２	２→　０

どちらも成果を上げている（力がついてきている）と考えられる。今後は，下学年では，視写に重点を，上学年では音読に重点を置いて指導していく必要がある。

○　兄弟姉妹で音読に励む姿が見られた。

○　黒板を視写する時間が短くなった。

○【計算チャレンジより】

前学年までの計算技能の定着を把握した。月１回の復習により，確実なものとした。

４年計算力テスト（出題範囲２・３年生の計算領域）

タイム	５月（人）	１月（人）
３分台	３	３
４分・５分台	９	１７
６分・７分台	１５	１５
８分・９分台	１１	１０
１０分以上	１２	３

点　数	５月（人）	１月（人）
１００点	０	６
９０点・９５点	１１	１９
８０点・８５点	１８	１５
７０点・７５点	８	７
６５点以下	３	１

５年計算力テストその２（出題範囲４年生の計算領域）

タイム	５月（人）	１月（人）
１分・２分台	２	８
３分・４分台	５	３５
５分・６分台	１６	２０
７分・８分台	１８	４
９分・10分台	４	２
１１分以上	２４	４

点　数	５月（人）	１月（人）
１００点	１	６
９０点・９５点	７	１１
８０点・８５点	２０	１８
７０点・７５点	１５	１３
６０点・６５点	９	４
５０点・５５点	３	４
４５点以下	１０	７

○　計算力がこれまで以上に向上した。

○　計算練習の繰り返しで，集中して物事に取り組む姿勢が身に付いてきている。

○　【個に応じた指導のための指導法の改善】

「研究授業より【５年　図形の面積　　６年　分数のかけ算・わり算】」

・　（主副ばかりでなく）ＴＴ指導による役割分担の工夫に広がりが見られた。

・　自力解決を促すヒントカードの活用が図られた。

・　習熟度別学習において，自分のめあてに応じて課題を追求できた。

・　自己評価プリントの活用により，子供たちの意欲が単元を通して持続できた。

・　わかる経験を通して算数が楽しいと感じる子が増えてきた。

○　家庭学習の手引きを配布し，各学年での共通理解を図られた。個々に関する課題については，全保護者対象の個人面談等で説明・協力を促すことができた。

○　共通実践事項（「返事」「チャイムの合図」）を決め，重点的に取り組むことにより，習慣化が図られた。

○　自分の考えを発表するときの話型については，以前に比べ定着してきている。

２．今後の課題

○　音読練習の見直し。読むことは上手になってきているが，間違いに気づいていない場合がある。

○　国語プリントは，個に応じてプリント数を増やすべきである。

○　授業導入最初の５分をプリント学習に当てたが，無理があった。校時表への位置づ

けが必要である。
○　効果的な少人数（習熟度別）指導，ＴＴ指導のさらなる研究。
○　特に高学年では，中位・上位の子の伸びは目に見えてわかるが，下位の子の伸びがあまり見られない。それらも実態として踏まえた指導方法（授業も含む）の研究が必要である。
○　基本的な学習のしつけについての継続実践。
○　家庭での生活習慣の確立についての定着度調査（結果をもとに更なる啓発を）。
○　校内掲示板の活用と意欲を持たせる掲示方法の工夫。
○　読解力の変容把握のための評価方法の解明。
○　子ども中心の学習（授業）の在り方の具体的解明。
○　一人一人を確実に評価する方法の確立とその活用（評価と指導の一体化）。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

○　音読・視写チェック（月１回）
・　音読の力（１分間で３００字程度），視写の力（５分で２００字）の変容を把握するため。（　）内は，めやすであるが，実施してみて，低学年にも妥当であるか検討の必要があると話題になった。
○　計算チェック（隔週金曜日の朝２０分間）
・　現学年の計算問題を行い，子供たち自身がチェックして，担任の先生に見せることにより，どの時点で理解が不十分か確認し，定着に役立てる。
○　計算力テスト（１月実施）
・　現学年の計算領域において，どの程度理解しているか項目ごとにテストを行う。その結果を踏まえ，３月までに定着を図る。
○　計算チャレンジテスト（１月実施）
・　前学年までの計算領域が出題範囲。５月同様のテストを行い，変容の確認とその後の個別指導に役立てる。
○　全校一斉漢字テストの実施。
○　単元テストによる把握。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○　８／２７（水）町教職員夏季研修会において，町内の先生方を前にして，学力向上フロンティアとしての本校の取り組みについて，プレゼンテーションを交えながら，説明を行った。その後，意見交換を行い，学力向上のための手だて等について話し合った。
○　１１／２８（金），町内の先生方各校１名～３名参加のもと，習熟度別学習の研究授業を行った。授業研究と情報交換をすることにより，学力向上への取り組みの意識向上と今後の課題を確認し合った。
○　１年目の研究を成果としてまとめ，研究冊子を作成し，町内の学校配布する（３月上旬製本終了予定）。
○　平成１６年度１月下旬～２月上旬（期日未定）にフロンティアスクールとしての研究の成果を発表する予定である。

◇　次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　●１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　□７～１２学級　●１３～１８学級　□１９～２４学級　□２５学級以上

【指導体制】　●少人数指導　●Ｔ．Ｔによる指導　□一部教科担任制　□その他

【研究教科】　●国語　□社会　●算数　□理科　□生活　□音楽　□図画工作　□家庭　□体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　●有　□無